生態園観察マップ　＊＊行ってみよう見つけてみよう＊＊　新緑編

季節のできごと　・生態園に春の草花、樹木の花がたくさん咲いています。

白い花：ハルジョオン、シロツメクサ、カラタチ、ムクノキ、ネズミモチ

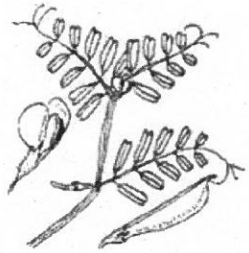
桃色・赤紫の花：カラスノエンドウ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、ヤマザクラ

黄色い花：セイヨウタンポポ、ハルノノゲシ、ジシバリ、カタバミ

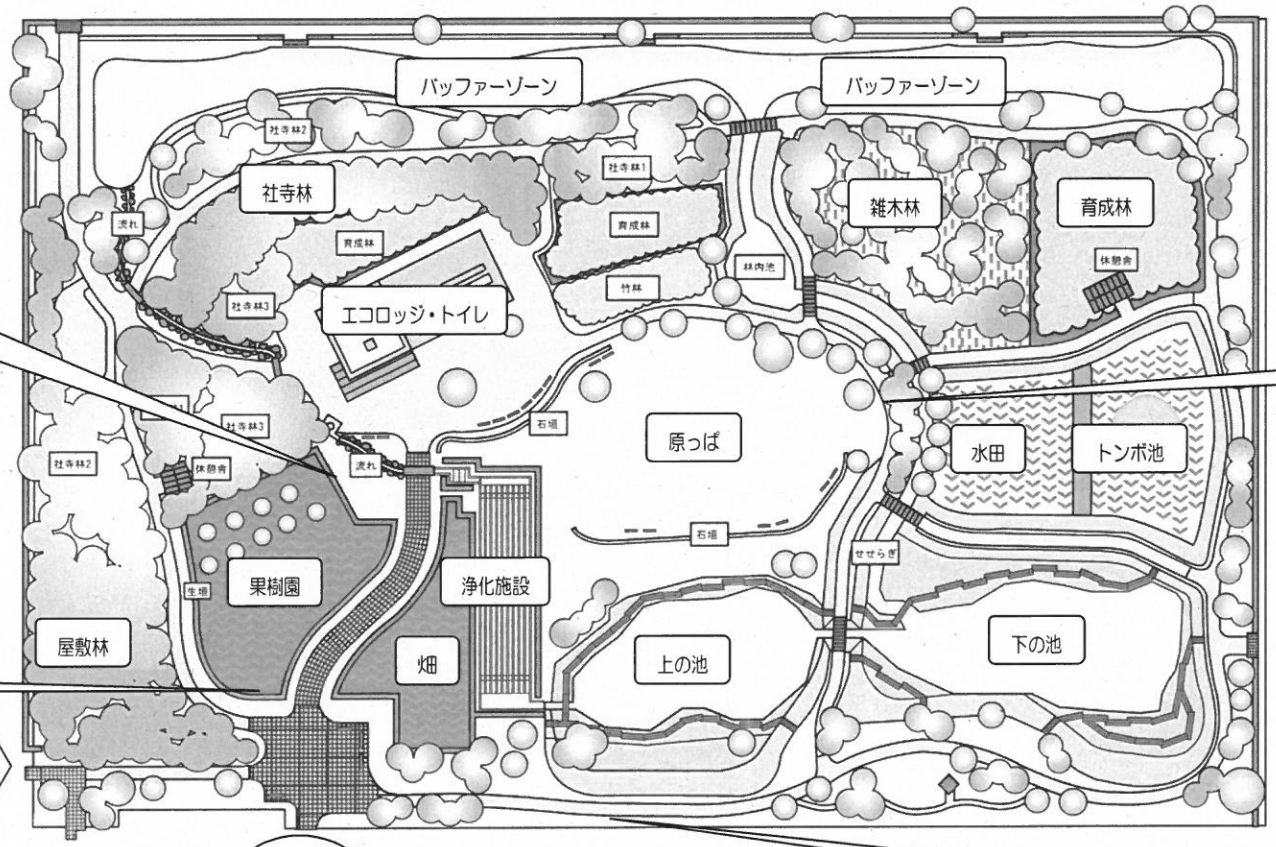
青色・青紫の花：オオイヌノフグリ、ムラサキサギゴケ、フジ、クサフジ

＊セイヨウタンポポ

シロツメクサ



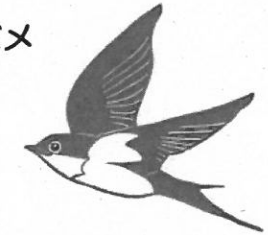
カラスノエンドウ

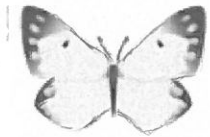


カラタチ
◎トゲに注意

新しいベンチ

＊ツバメ

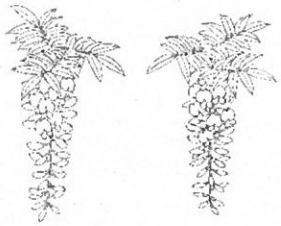




＊モンキチョウ

ヤマザクラ

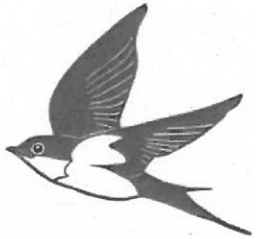
オオイヌノフグリ



＊フジ（棚）

展望室

＊印は、裏に説明があります。
読んで参考にしてみて下さい。



＊ ツバメ ＊

チュビチュビチュビチュルルルルビーと早口でさえずります。ツバメは時速約200 km の高速で飛行でき、餌を獲ったり、食べたり、水浴びなど生活のほとんどは飛びながら行うことができます。

頭から背中は光沢のある濃紺で、額と喉が赤く、白い腹面の胸に濃紺の帯状斑があります。外側尾羽が特に長い燕尾で、これらの特徴から蝶ネクタイに燕尾服のイラストに描かれているのを目にしたことあるのではないでしょうか。

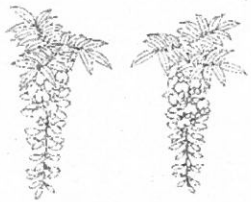
ツバメは、桜の花が散る頃に南方よりやって繁殖し、秋に南方へ飛び去ります。このような鳥を夏鳥といいます。ツバメは人が生活している環境（民家や商店の軒先など）に巣をつくります。まわりに人がいることで、卵やひながハシブトガラスに襲われる危険が少なくなり、より安全に子育てできるためといわれています。古くから商家ではツバメの巣は商売繁盛の印とされ、巣だった後も巣をそのまま残しておく家も多いようです。また、農村部は穀物を荒らす害虫を食べてくれる益鳥として大切にされました。

＊ モンキチョウ ＊

春先に見られる黄色い蝶はモンキチョウかキチョウです。モンキチョウはその名のとおり、前翅の外縁に黒い紋、後翅の中央に黄白色の円紋があります。オスはすべて黄色ですが、メスは黄色型と白型がいます。

モンキチョウは幼虫も成虫もマメ科の植物を食草とします。生態園にはモンキチョウが大好きなマメ科の植物、クローバー、シロツメクサなどがあります。さらに今年は水田にクサフジを植えました。

なお、モンシロチョウはアブラナ科のキャベツなどを食草とします。



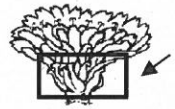
＊ フジ ＊

落葉つる性木で、高木や棚などに巻き付いて上まで達します。こちらもマメ科の植物です。

4月下旬～5月頃、蝶のような形の2 cm 前後の花が多数つき、大きな房となって垂れ下がります。上の大きな花弁は、花を訪れる昆虫の目印になっていて、クマバチなどをよく見かけます。

今、話題の万葉集では、フジは藤波と表現され、20首以上詠まれているそうです。昔から花を観賞するだけでなく、繊維を衣服や縄に使うなど生活に活かされてきました。

＊ 黄色い花 ＊



春は黄色の花が目立ちます。人の目には黄色に見える色に昆虫の目が反応しやすいからです。昆虫に花粉を運んでもらうことで受粉する虫媒花の花は、色や形、香りや蜜で昆虫を誘います。人には見えない紫外線が昆虫には暗く見えるため、花びらのつけ根に向かってだんだんと色が濃くなり、中心に蜜があることを教えたりもします。（蜜標）

春の黄色い花の見分け方や特徴をあげます。

◇セイヨウタンポポ：外来種。茎と花の接続部分（総苞片）が反り返っている。受粉しなくても種子を作ることができ、2～11月頃まで咲いている。

◇カントウタンポポ：在来種。虫媒花。総苞片が反り返っていない。（右上図）春にのみ開花する。

◇ハルノノゲシ：草丈が 50～100 cmと背が高い。葉がトゲトゲしているが、触っても痛くない。触って痛く、大型なのはオニノゲシ。

◇ジシバリ：別名イワニナガ。細い茎が地面を這う。花の中心に雄しべの黒い葯が多く目立つ。花が大きいのはオオジシバリ。

◇ニガナ：茎や葉に苦みがある。通常花びら（舌状花）が 5枚。8枚以上はハナニガナ。

◇ブタナ：別名タンポポモドキ。茎が 50 cm以上になり、枝分かれする。花茎に葉がつかない。

◇カタバミ：花と葉が昼間開いて夕方閉じる。（就眠活動）ハート形の 3枚の小葉がつく。